

**東日本大震災時の森ビル物件の地震計実測データを解析
人の恐怖感を低減する粘性系ダンパーの有効性を実証
実測データ・解析結果を学術機関等に公開し、耐振技術進歩に貢献**

森ビル株式会社では、「逃げ出す街から逃げ込める街へ」をテーマに、安全・安心な街づくりの一環として、独自に定めた高い耐震基準のもと、制振装置等の先端技術を駆使し、ビルの耐震化に積極的に取り組んでいます。さらに、主要ビルには、その制振効果を評価・検証することを目的に地震計を設置、観測データの分析・解析処理を行い、その有効性を確認するとともに、今後のプロジェクトに活かしています。

この度、東日本大震災において観測された地震計実測データを、耐震工学の権威 東京工業大学 建築物理研究センター長 笠井和彦教授に提供し、制振・免震効果の共同研究を実施いたしました。その結果、六本木ヒルズ森タワーをはじめとする各ビルにおいて、制振装置が有効に働き、地震の揺れが大幅に低減していることを実証しました。

東日本大震災時に観測した地震計実測データ解析のポイント ※詳細は[参考資料1]ご参照

- ・六本木ヒルズ森タワーの変位は制振装置の効果により半減
なお、制振装置は、揺れの最大値低減だけでなく、揺れの早期収束にも効果
- ・中小規模(震度1～6)の地震や長周期地震動には「粘性系ダンパー」が有効
- ・人の恐怖感を低減する「粘性系ダンパー」の有効性

実測データ・解析結果を学術機関等に公開し、耐震技術進歩に貢献

建物の揺れは、地震の規模や性質、また建物構造や地理特性によって異なりますが、巨大地震の到来が不安視されるなか、当社で得られた知見やノウハウを積極的に社会に還元することで、耐震技術の進歩とともに、安全・安心な都市創造に貢献してまいります。

■日本建築学会「東日本大震災2周年シンポジウム」

東京工業大学 笠井和彦教授(共同研究者)による論文発表

日時: 2013年3月29日(金) 10:00～17:30

場所: 会場: 建築会館ホール

※なお、森ビルホームページにおける情報公開も予定(5～6月)しております。

【本件に関するお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 田澤、深野

〒106-6155 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー私書箱1号

Tel: 03-6406-6606 Fax: 03-6406-9306 E-mail: koho@mori.co.jp